

- 日米共同統合防災訓練（TREX:Tomodachi Rescue EXercise）は、南海トラフ地震発生時における在日米軍との共同対処を実動により演練し、自衛隊及び在日米軍並びに防災関係機関との連携による震災対処能力の維持・向上を図るもの。

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 時 期         | 令和3年2月12日（金）～13日（土）                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 場 所         | ○ 関東・東海・近畿・中国・四国・九州地方並びにこれらの周辺海空域（主に高知県・徳島県が訓練場所の中心）<br>高知県：陸自高知駐屯地 等<br>徳島県：海自徳島基地 等                                                                                                                                                                                           |
| 主 要 訓 練 項 目 | ○ 指揮所訓練<br>・ 陸上総隊等の指揮幕僚活動<br>○ 実動訓練<br>・ 航空機等を用いた被害状況の把握<br>・ 部隊集中のための増援部隊等の展開<br>・ 各種輸送手段を用いた物資輸送、米軍との共同訓練（救援物資の物量投下、捜索・救難活動）<br>・ 艦船（輸送艦しもきた）を拠点とした捜索・救難活動、洋上SCU(注1)の設置・DMAT(注2)との連携<br>(注1) Staging Care Unit（航空搬送拠点臨時医療施設） (注2) Disaster Medical Assistance Team（災害派遣医療チーム） |
| 参 加 部 隊 等   | 1 自衛隊：統合幕僚監部、陸上自衛隊（陸上総隊、東部方面隊、中部方面隊、西部方面隊）<br>海上自衛隊（自衛艦隊、横須賀地方隊、呉地方隊）、航空自衛隊（航空総隊、航空支援集団）<br>2 米 軍：在日米軍（在日米陸軍、在日米空軍）<br>3 その他：DMAT等                                                                                                                                              |
| 参加規模（予定）    | 自衛隊：人員約830名、艦艇2隻、回転翼機15機及び固定翼機9機の計24機<br>米 軍：人員約60名、回転翼機3機（UH-60×3機）及び固定翼機1機（C-130×1機）の計4機                                                                                                                                                                                      |

※天候等の理由により、参加規模が変更されることがあります。

# 令和2年度日米共同統合防災訓練の概要

- ① 部隊展開訓練
- ② 救出・救助訓練
- ③ 救援物資の輸送訓練

- ③
- ・空自、米空軍機による海上への物料投下
  - ・海・陸自による輸送
- (約40名)

C-130(空)

C-130 (米空軍)

C-1 (空)

C-2 (空)

【米空軍の行動】  
13日、横田基地を離陸後、高知県沖において物料投下訓練を実施し、横田基地へ帰投

- ① 陸自増援部隊の揚陸(約200名)

自:本州

自:美保基地

- ① 陸自増援部隊の空輸(約30名)

徳島基地において陸自部隊及び車両を降機、じ後、陸路により米子駐屯地(鳥取県)へ帰隊



C-130(空)

徳島基地

【在日米陸軍の行動】

13日、徳島基地を離陸後、高知県高須浄化センター広場において傷病者を収容し、輸送艦へ搬送。じ後徳島基地へ帰投

高知駐屯地から輸送艦へDMATを搬送、じ後、徳島基地に帰投

輸送車両(陸)

高知駐屯地

高須浄化センター

CH-47(陸)

須崎港

興津海岸

掃海艇

輸送艦

UH-60(空)

掃海艇

- ② 陸自、米陸軍ヘリとの共同空中機動(約30名)

- ②
- ・海上捜索
  - ・傷病者の搬送(約50名)

掃海艇からUH-60により遭難者を収容(ホイスト)し、高知駐屯地へ搬送

UH-60×3(米陸軍)

UH-1(陸)

- 大規模災害発生時において、傷病者を被災地外の医療施設に広域搬送するに当たり、当該傷病者を一時的に収容するため、空港などに設置される臨時的な医療施設。
- S C Uにおいては、広域医療搬送の順位を決定するためのトリアージや応急的な追加医療処置を実施。
- 甚大な被害により陸上地域にS C Uが設置できない場合には、ヘリの離着艦が可能な艦船にS C Uを設置する構想あり。

## 1. 海上自衛隊輸送艦「しもきた」

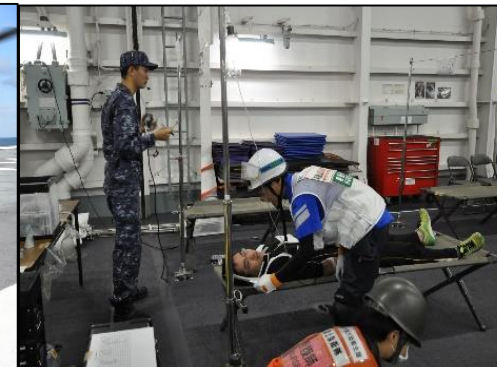


|       |                     |
|-------|---------------------|
| 同 型 艦 | 3 隻（おおすみ、しもきた、くにさき） |
| 全 長   | 1 7 8 . 0 m         |
| 幅     | 2 5 . 8 m           |
| 排 水 量 | 8 , 9 0 0 トン        |
| 速 力   | 2 2 k t             |
| 乗 員   | 約 1 3 5 名           |

## 2. 直近の日米共同統合防災訓練(TREX)の様子



令和元年度：傷病者搬送(※)



平成30年度：洋上SCU訓練



※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症対応によりDMATの参加が得られなかったため、洋上SCUの設置なし

## 一般的な 感染拡大防止策

- ・ 「3密」の回避
- ・ 消毒、マスクの常時着用、換気の処置、手指衛生と手袋着用
- ・ 参加隊員の14日前からの健康観察(日々の検温を含む。)
- ・ 感染が疑われる隊員が発生した場合等における処置要領の確立(保健当局との連携、阪神病院への搬送、自治体との情報共有等)等
- ・ 地元部隊等との接触の局限
- ・ 飲食時の注意事項の徹底
- ・ 健康管理担当者・補助者の指定、指導
- ・ 使用物品等の消毒
- ・ 事前の感染予防資器材の準備

### 【部外者との接触機会】

艦内でのDMATとの接触



### 【感染拡大防止策】

- ・ 艦内の活動エリア(部外者と海自隊員等)を区分
- ・ 訓練間の接触時間を最小限化

## 在日米軍の 感染拡大防止策 (上記以外の対策)

- ・ ホテル内にとどまり宿泊
- ・ 自衛隊車両での訓練場所とホテルの往復移動
- ・ 感染が疑われる米軍人が発生した場合等における輸送要領の確立